

令和元年度 事業実施状況

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価
	A	
デジタル化時代の知の拠点づくり事業		
鳥取元気プロジェクト	—	
元気づくり総合戦略	—	
(概要)		
ア 目的及び事業の実施状況		
(ア) 目的		
地域の歴史や文化に関する資料を容易に利用できる環境を整え、次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料のデジタル化を推進するとともに、望ましいデジタルアーカイブシステムの構築について検討する。		
(イ) 事業の実施状況		
○資料デジタル化の推進		
・郷土資料1,761点のデジタル化を行った。 (和本等47点、掛軸等49点、色紙・短冊1,602点、その他63点)		
・令和元年度(5年計画の2年目) 郷土資料である鳥取県郷土調査のデジタル化に着手した。(57点)		
○既存のデジタル化資料の公開		
・既にデジタル化を行っている資料と原資料と合わせて展示を行い、デジタル化した際の利便性を紹介した。		
資料展：デジタル化でうかびあがる岩美の魅力 会場：岩美町中央公民館ロビー 期日：令和2年2月8日～2月22日		
○デジタルアーカイブシステム構築のための検討		
・博物館、公文書館、図書館、埋蔵文化財センター4者の連絡会により、それぞれが求める機能を集約した仕様書と調達の方法について検討した。		
・デジタル化を担う人材を育成するために、研修会等への派遣を行った。		
○デジタル化計画ネットワーク会議の開催		
・資料のデジタル化に関心のある市町村の担当者を募り、意見集約を行う会議を2回開催し、導入スケジュールの確認や基本機能の検討を行った。		
イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点		
・仕様書の作成、企業の訪問による施設・設備の確認、検品作業等をとおして、複数の職員が担当し、多くの職員のスキルの向上につながるよう配慮した。		
ウ 成果及び効果		
・当初の予定どおり、デジタル化を進めることができた。		
・岩美町中央公民館で、デジタル化の効果を知らせる展示が実施できた。		
・デジタル化計画ネットワーク会議、博物館・公文書館・図書館・埋蔵文化財センターの4者協議等をとおして、システムの検討を進めることができた。		
エ 課題		
・職員の経験を蓄積し、知識と技術を身に付けること。		
・関連機関との連携を進めること。		

(単位：千円)

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価
仕事と暮らしに役立つ図書館推進事業 (暮らしに役立つ図書館推進事業)	A	
鳥取元気プロジェクト	—	
元気づくり総合戦略	—	
(概要)		
ア 目的及び事業の実施状況		
(ア) 目的		
図書館が所蔵する多様な資料や専門職としての司書の能力を最大限に生かし、地域の情報拠点として、県民の情報要求に応え、県民の生活課題に即した情報提供を実現する。		
(イ) 事業の実施状況		
<医療・健康情報の提供>		
○図書館を活用した「オレンジネットワーク鳥取モデル」推進事業(継続)		
・「オレンジネットワークとっとりワークショップ」(東部・中部・西部会場)の開催		
内容：講義、取組報告、グループディスカッション		
東部会場	令和元年7月11日(木)	会場：鳥取県立図書館 参加者：64名
中部会場	令和元年7月12日(金)	会場：倉吉交流プラザ 参加者：35名
西部会場	令和元年7月17日(水)	会場：米子市立図書館 参加者：28名
・「図書館を活用した『オレンジネットワーク鳥取モデル』推進事業平成30年度・令和元年度報告書」の作成、配布		
掲載している主な取組み：		
オレンジネットワークとっとりリレー講演会(H30)、オレンジネットワークとっとりワークショップ(R1)、米国図書館協会での事例発表等		
※オレンジネットワーク鳥取モデル：認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、図書館、行政機関、高齢者等が集う施設と連携した認知症対策		
○米国図書館協会で当館の医療・健康情報サービス、高齢者サービスに関する事例を発表		
○国立がん研究センターのがん情報展示を県立図書館、2市町村立図書館で実施		
※国立がん研究センターが今年度の図書館総合展で行ったがん情報展示のパネルと本のセットを借り受けて実施。		
<法律情報・困りごと解決支援情報の提供>		
○「法テラスの日」記念無料法律相談会を共催(会場：県立図書館)		
期日等	平成31年4月14日(日)	会場：県立図書館
参加者	6名	
主催	日本司法支援センター鳥取地方事務所(共催：県立図書館)	
○「自由研究お手伝い!」「小学生裁判傍聴会 法廷に行ってみよう!」開催		
期日等	令和元年7月24日(水)	会場：県立図書館、鳥取地方裁判所
参加者	23名	
主催	鳥取県弁護士会(共催：県立図書館)	
○関連機関と共同で相談会を開催(会場：県立図書館)		
相談会名		開催時期、参加者数
鳥取県行政書士会無料相談会		4, 5, 6月開催27組参加
鳥取県司法書士会無料相談会		4, 5, 6月開催30組参加

○関連機関と共同でセミナーを開催（会場：県立図書館）

期日等	令和元年12月14日（土） 会場：県立図書館
参加者	45名
主催	日本司法支援センター鳥取地方事務所（共催：県立図書館）

<子育て応援情報の提供>

○託児サービス「託児で来ぶらり」の実施

実施日	毎週水曜日 午前10時～12時
対象・利用者	0歳～6歳：延べ78名

○「読みメンになろう！」プロジェクト事業

・読みメンのおはなし会（男性職員による絵本の読み聞かせ）の開催

実施回数	年4回（夏休み中など）
参加者	延べ79名：子ども37名、大人42名

・読みメン月間の企画展示

期間等	令和元年6月1日（土）～6月29日（土）場所：県立図書館1階
内容	読みメンにおすすめの絵本、男性の育児に関する図書、ブックリスト等の展示

<高齢者サービス情報の提供>

○「セカンドライフを楽しむための情報活用講座」の開催（会場：県立図書館）

・今年度初めての取り組みとして、ICT機器に触れることの少ない高齢者を対象に、タブレット端末を使用した情報の収集方法やその活用について学ぶ機会を提供した。

実施日・参加者数	（1回目）令和元年7月18日（木） 10名
	（2回目）令和2年1月16日（木） 13名

○「いきいきライフ応援コーナー」の運営

・超高齢化が進む中、中高年齢者に関心の高い分野の図書を提供するとともに関連する図書の展示を行った。

平成30年度貸出冊数	10,921冊
平成31年度貸出冊数	6,427冊 ※天井工事区域のため減少

○「あたまイキイキ音読教室」の開催（会場：県立図書館）

・昔話や詩などをみんなで声に出して読む会をボランティアと一緒にテキスト選びと進行を行った。なお、1月からは参加者が主体となって進めていくこととした。

実施日・参加者数	毎月第4木曜日（1日2回開催、8・9月除く）・延べ250名
----------	-------------------------------

・また、市町村立図書館と連携し、音読教室リーダー対象の講習会を開催した。

実施日・場所・参加者数	・令和元年6月20日（木）米子市立大和公民館 23名 ・令和2年2月20日（木）境港市保健相談センター 24名
-------------	--

○高齢者施設との連携

・図書館利用が困難な高齢者に読書を楽しんでもらうため、高齢者施設を訪問し、本の貸出と音読教室を行った。

実施回数	5回
------	----

<障がい者サービス情報の提供>

○障がい者に配慮した「はーとふるサービス」推進事業

・録音図書の再生機器を2台購入した。

○録音図書の貸出

貸出作品数	1,096点
-------	--------

○「手話で楽しむおはなし会」の開催

実施日・参加者	毎月第4日曜日・延べ 88名：子ども28名、大人60名
---------	-----------------------------

○「バリアフリー映画上映会」の開催（新型コロナのため令和2年度に延期）

実施日	映画名	参加者
令和2年3月22日（日）	「おおきなかぶ」「かんすけさんとふしぎな自転車」	80名（定員）

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・「オレンジネットワークとっとりワークショップ」では、各地域の認知症地域支援推進員を講師に招き、一般県民と、図書館、行政関係課、高齢者福祉施設、病院の職員等が共にグループディスカッションを行うことで、今後につながる関係づくりを目指した。
- ・「セカンドライフを楽しむための情報活用講座」を開催し、高齢者がタブレット端末を使って、インターネットから情報収集する方法を学ぶ機会を設けた。
- ・図書館利用が困難な高齢者に読書を楽しんでもらうため、高齢者施設への訪問を試行しているが、施設職員が進行役となって音読教室を行うことを促した。
- ・音読教室を未実施の市町村立図書館と連携し、音読教室リーダー対象の講習会を開催した。

ウ 成果及び効果

- ・「オレンジネットワークとっとりワークショップ」により、認知症の方の図書館見学等、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」に向けた実現可能なアイデアが得られた。
- ・米国図書館協会での事例発表について、マスメディアに取り上げられたことにより、県内でも当館のサービスを広く周知することができた。
- ・「セカンドライフを楽しむための情報活用講座」を開催し、ICT機器に触れることが少ない高齢者が新たな学びにより、興味や意欲の向上につながった。
- ・音読教室未実施の市町村でリーダー対象の講習会を開催したことにより、来年度からの実施につながった。
- ・高齢者施設と連携することにより、直接来館が困難な県民に読書に親んでもらうことができている。

エ 課題

- ・今後、認知症の方が増えていくことが予想される中で、関連情報の提供や関係機関との連携の推進等、各市町村立図書館の取組みを継続して支援していく必要がある。
- ・当館の高齢者サービスの取組みのノウハウを市町村立図書館と共有していく。
- ・近隣住民が対象となる「託児サービス」は、今後は市町村立図書館が中心となって実施するよう、より一層働きかける必要がある。
- ・県内の障がい者サービスの充実を図るため、市町村立図書館の障がい者サービスの実態を把握する必要がある。

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価
仕事とくらしに役立つ図書館推進事業 (図書館ビジネス支援推進事業)	A	
鳥取元気プロジェクト	—	
元気づくり総合戦略	—	

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

県全域での図書館のビジネス支援体制を推進するため、各地域の図書館と協力し、全域でのビジネス支援サービスの定着、利用者の掘り起こしに取り組む。産業振興や雇用を創出することは、地域活性化を考えるうえで極めて重要な課題であり、商工団体、産業支援機関との連携を強化し、図書館の機能を生かしたビジネス支援を積極的に行っていく。

(イ) 事業の実施状況

○「図書館で夢を実現しました大賞」の実施(隔年)

募集期間	令和元年6月～11月
応募者数	4名
表彰式	令和2年3月20日(金) 県立図書館
受賞者	最優秀賞：岸本 宏那氏(自家焙煎 燕珈琲) 優秀賞：伊藤 啓亮氏(令和院 Leiwa Inn)

○「農業者のための図書館活用ミニ講座」の開催

期日等	令和元年7月13日(日) 会場：倉吉交流プラザ
参加者	56名
主催	鳥取県立図書館、倉吉市教育委員会(倉吉市立図書館)
内容	・「野菜づくりのコツと裏技(秋冬野菜編)」 「困ったらまずはコレ! ルーラル電子図書館の使い方」 講師 向井 道彦氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) ・倉吉市立図書館より(山脇館長)

期日等	令和2年2月4日(火) 会場：南部町立法勝寺図書館、南部町天萬庁舎
参加者	計102名(33名/69名)
主催	鳥取県立図書館、南部町立図書館
内容	・「獣害対策のコツと裏技」(南部町立法勝寺図書館) ・「野菜づくりのコツと裏技(春夏野菜編)」(南部町天萬庁舎) 講師 向井 道彦氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) ・南部町立図書館より(新井館長)

※ルーラル電子図書館：(一社)農山漁村文化協会が運営する農業と食生活に関する情報をまとめた有料のデータベース。

※鳥取県立図書館が県内全市町村立図書館で利用可能な契約を結んだため、利用促進の機会として上記講座を開催している。

○鳥取県立図書館と産業支援機関との連携事業

期日等	令和元年8月9日(日) 会場: 県立図書館
参加者	20名
主催	鳥取県立図書館、日本政策金融公庫
内容	「高校生ビジネスプラン作成講座」 ・ビジネスプラン作成講座 ・RESAS(地域経済分析システム)について ・図書館活用講座・館内見学

期日等	令和2年1月14日(火) 会場: 県立図書館
参加者	12名
主催	鳥取県立図書館、鳥取県発明協会
内容	「J-Plat Pat(特許情報プラットフォーム)操作方法 実務講習会」 講師: 鳥取県知的所有権センター 知財コーディネーター

○ビジネス情報相談会の開催(会場: 県立図書館)(4月~3月)

- ・県立図書館司書と「鳥取県よろず支援拠点」※の相談員による相談会。相談者が求めるビジネス情報の検索は司書が行い、経営相談は鳥取県よろず支援拠点の相談員が行う。倉吉・米子の各会場も図書館職員が同席し、相談に応じた。

会場	開催日	相談数
鳥取会場	毎月第3木曜日	14件
倉吉会場	毎月第1・3水曜日 奇数月第2日曜日	15件
米子会場	毎月第3金曜日	4件

※よろず支援拠点…国が全国に設置する経営相談所で中小企業・小規模事業者の売上拡大や経営改善など経営上の相談に対応している。

○関係機関と連携し定期相談会を開催(会場: 県立図書館)(4月~3月)

相談会名	共催等関係機関	開催日	参加者数(延数)
創業・融資相談会	日本政策金融公庫	毎月第2日曜日	16名
起業・経営 なんでも相談会	鳥取県中小企業診断士協会 公益財団法人鳥取県産業振興機構	毎月第2日曜日	
特許相談会	鳥取県知的所有権センター	毎月第2火曜日	9名
就農相談会	公益財団法人農業農村担い手育成機構	年3回	8名

○商工労働関連研修会、イベントへの出前図書館の実施(9回)

研修会、イベント名	会場
鳥取県商工会連合会支援員研修	鳥取県商工会連合会
中小企業診断士理論政策更新研修	伯耆しあわせの郷
商工中金ユース会	ホテルニューオータニ
子どものための科学教室	鳥取県産業技術センター
とっとり産業技術フェア2019	鳥取県民体育館
6次産業化セミナー	中部総合事務所
とっとり創業塾	鳥取商工会議所
創業ゼミ(秋コース)	米子商工会議所
創業ゼミ(冬コース)	国際ファミリープラザ

○県立図書館で開催される講座での図書館活用セミナー等の開催（3回）

講座名	主催者
鳥取県産業振興機構支援メニュー説明会	鳥取県産業振興機構
食品事業者のための販路開拓セミナー	鳥取銀行
創業相談ウィーク	日本政策金融公庫
鳥取県因州和紙フォーラム 鳥取県伝統和紙高度利用研究会	（地独）鳥取県産業技術センター 鳥取県因州和紙協同組合

○鳥取県産業技術センター主催の企画展示の開催

内 容	「写真×因州和紙の可能性」
展 示 物	因州和紙に印刷した写真、鳥取県因州和紙協同組合等の紹介など
会 場	県立図書館 1階 天井工事壁、貸出カウンター前
期 間	令和元年12月1日（日）から令和元年12月20日（金）

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・相談会を共催する機関と定期及び随時の意見・情報交換を行い、意思疎通を図った。
- ・講座等の開催に際しては、市町村立図書館と共催し、事前準備・役割分担等を行った。

ウ 成果及び効果

- ・市町村立図書館と共催した農業の講座では、広報でも協働し、多くの参加者を得た。参加者の満足度も高く、共催館にとっても新たな展開への自信と意欲を生んだ。
- ・昨年度、全国で初めて共同利用を開始したオンラインデータベース「ルーラル電子図書館」が伯耆町での導入が決まり、県内全市町村立図書館で使えるようになった。
- ・起業、創業の他にも、まちづくりのヒントや先進事例等、多様な相談が寄せられるようになった。
- ・産業支援機関からの紹介で、資料相談を目的に来館されるケースがあり、図書館のビジネス支援機能への理解が進みつつある。
- ・産業支援機関からの様々な相談に対応することで司書のスキルアップが進んでいる。
- ・ライブラリアンシップ賞に関連した報道がなされ、ビジネス支援の認知が進んだ。

エ 課 題

- ・国の働き方改革の進展に対応し、働く個人を応援するという視点での事業の検討が必要である。
- ・中西部地域で図書館のビジネス支援機能の周知を図るため、より一層市町村立図書館と連携し事業展開していく必要がある。
- ・担当者の異動等により図書館との連携が弱まることがないよう、継続して図書館のビジネス支援機能を周知する必要がある。

(単位：千円)

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価
人の成長・学びを支える図書館推進事業	A	
鳥取元気プロジェクト	—	
元気づくり総合戦略	—	

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

乳幼児期からの子どもの読書推進を図るため、子どもたちに日常接する職員（幼稚園教諭、保育士、公共図書館職員等）の資質向上や、市町村立図書館児童図書部門の支援を行う。

経済的に困窮する家庭やひとり親家庭などの「サポートの必要な家庭」を、図書館の「資料」や「場」の活用を通じて支援する。市町村立図書館と連携してサポートの必要な人へ図書館サービスを届けると共に、本を読むだけではない「居場所」としての図書館の可能性を追求する。

(イ) 事業の実施状況

<子ども読書活動推進>

○「子どもと本をつなぐ講座」の開催

・公共図書館職員、学校図書館関係職員等の子どもと子どもの本に関わる人々が、発達段階に応じた子どもの本の魅力や選び方について学ぶことで、子どもの読書活動に関する理解や関心を深め、取組のさらなる充実と促進をはかる。

期日等	① 令和元年11月26日(火) 会場：県立図書館 ② 令和元年12月3日(火) 会場：米子市立図書館
参加者	① 53名 ② 40名
内容	「小学校高学年向けの読みものを選ぶ」と題した児童文学についての講義 講師：土居安子氏(大阪国際児童文学振興財団 理事・総括専門員)

名称	内容・期日等	参加者等
夏休み図書館まつり	小中学生の自由研究に役立つ本のコーナー	1,222冊
	「図書館たんけん隊」	24名
	「小学生のための夏休み自由研究おたすけ講座」	8組
「えほんのじかん」	毎週火曜日開催	662名(大人336名、子ども326名)
「おはなし会」	第4を除く日曜日	子ども81名
「大人も楽しむおはなし会」	毎週土曜日	71名(大人36名、子ども35名)
図書館見学を訪れた保育園児・小学生へのおはなし会	3回開催	77人
新刊児童図書の選定用貸出	市町村立図書館等へ貸し出し	4,138冊
「ドリームティーンズコーナー」 ・10代青少年の問題意識や興味に沿った資料収集やコーナー展示を実施、ホームページや通信の発行等による情報発信を行った。 展示テーマ：「新・君たちはどう生きるか」(貸出回数377回) 「水本～book of water～」(貸出回数279回)		
時宜に応じた児童図書室の資料展示を実施。 展示テーマ：「春がきた！」(貸出回数737回) 「夏だ！夏だ！！」(貸出回数900回) 「みんなだいすきクリスマス」(貸出回数590回)ほか		

<「サポートの必要な家庭」応援>

○サポートの必要な家庭の現在を知るための講座

- ・市町村立、県立図書館職員が、サポートの必要な家庭の現状について学び、サービスを考えるための講座を開催した。

期日	内容	会場	参加人数
9月30日 (月)	「子ども食堂をOPENして」 講師：子ども食堂おうさか 代表 金田成人氏、やらいや逢坂事務局 小林好美氏、池田幸恵氏	子ども食堂おうさか ※大山町立図書館との共催	21人
令和2年 1月18日 (土)	「こども食堂とみんなの居場所 『ほっとここ』の取組み」 講師：こども食堂とみんなの居場所 ほっとここ代表 田中昭子氏	倉吉交流プラザ ※倉吉市教育委員会との共催	21人

○居場所としての図書館について考えるまちなかワークショップ

- ・図書館が多様な背景を持つ方の居場所になるために、どうあればよいのかを住民と一緒に考えるワークショップを市町村立図書館との共催で開催した。
- ・年齢や職業問わずに様々な人の参加があり、図書館のあり方について議論し、考えを共有する機会となった。

期日	話題提供プレゼンター	会場	参加人数
12月7日 (土)	田中泰子氏（フリーライター・TACOBUNE管理人）	岩美町立図書館 ※岩美町立図書館との共催	39人
令和2年 1月30日 (木)	灘英樹氏（境港市建設部次長・工学博士）	境港市保健相談センター ※境港市教育委員会との共催	49人
2月27日 (木)	諸岡若葉氏（株式会社シーセブン ハヤブサ）	隼Lab. ※八頭町立図書館との共催	35人

○「図書館=居場所!？」キャンペーン

- ・図書館が居場所であることをPRするチラシ・ポスターを製作し普及啓発を図った。
- ・市町村立図書館、学校図書館をはじめ、こども食堂等の子どもが時間を過ごす場所での配布や掲示を依頼した。
- ・チラシは、啓発イベントや図書館での行事、出前図書館等でも配布した。

○社会参加につながるボランティアの機会の提供

- ・一般的な就労が困難な方に対して、社会参加につながるボランティアの機会を図書館で提供する事業であるが、令和元年度は9月のボランティア募集を館として行わなかったため実施していない。来年度の実施に向けて調整中である。

○関係イベントへの出前図書館の実施

期日	内容	主催者
8月27日（火）	ひきこもり問題を考えるフォーラムin鳥取	鳥取県
11月24日（木）	子供の未来応援フォーラム	総務省

○取り組みを広げるためのイベント等での事業紹介

期日	内容	主催者
7月4日（木）	令和元年度生活困窮者自立支	社会福祉法人鳥取県社会福

	援推進会議	祉協議会
7月26日(金)	第25回鳥取県図書館大会	鳥取県図書館協会
10月1日(火)	令和元年度鳥取県社会教育振興大会参加	鳥取県社会教育協議会
11月21日	令和元年度第2回鳥取県公共図書館協議会	鳥取県立図書館
12月15日(日)	境港市読書まつり	境港市教育委員会
令和2年 2月18日(火)	令和元年度鳥取県子どもの学びの環境等生活困難者対策連絡会議 研修会	鳥取県・鳥取県教育委員会

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・市町村立図書館職員を対象としたストーリーテリング研修講座は3回の連続講座で実施し、3名が新たに語りに取り組むなど、職員のスキルアップにつながった。
- ・居場所づくりの取り組みについて、市町村立図書館に加え、学校図書館へも協力を依頼した。
- ・「居場所」としての図書館のあり方について、関係者のみならず、広く住民の皆さんと共に考える機会を大切にした。

ウ 成果及び効果

- ・利用者向けの行事や図書の企画展示、おすすめ本の紹介など、日々の活動により、親子で本を楽しむことや子育てに読み聞かせを取り入れることの良さが認知されることに繋がっている。
- ・小学校高学年向けの文学をテーマとした「子どもと本をつなぐ講座」は、参加者の満足度も高く、今後の子どもの読書活動推進に繋げることができた。
- ・ドリームティーンズコーナーは、通信での新着図書の紹介などに力を入れ、利用の促進につながる情報を発信した。
- ・居場所づくりの取り組みは、学校図書館にも取り組みが広まり、協力が得られるようになってきている。
- ・第2期鳥取県子どもの貧困対策推進計画の具体的施策に「図書館における居場所づくりの推進」が明記され、県として取り組むべき事業として認識された。

エ 課題

- ・平成30年度から5カ年計画で実施を予定している「子どもと本をつなぐ講座」をはじめとして、今後も市町村立図書館職員、学校図書館関係職員、保育士・幼稚園教諭等、子どもと子どもの本に関わる人々にスキルアップの機会を提供し、県内の子どもの読書活動推進に引き続き取り組むことが必要である。
- ・居場所としての図書館活用について、関係機関や支援団体、市町村立図書館の理解は進んでいるが、家庭への認知度が十分ではなく、継続して広報・啓発が必要である。
- ・子どもたちにとって、より身近な学校現場との連携をさらに推進する必要がある。

(単位：千円)

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価		
郷土情報発信事業	B			
鳥取元気プロジェクト	—			
元気づくり総合戦略	—			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
郷土資料(地域資料)の収集・保存を進め、後世へ伝えるとともに、郷土資料の普及・啓発、郷土関係文学者情報等の発信を行い利用促進を図る。				
(イ) 事業の実施状況				
○ふるさとの歴史再発見事業				
・ふるさとの歴史・文化等に対する県民の関心を高めるため、関係機関、団体とも連携しながら、資料展と講演会等を有機的に組合せて開催した。				
資料展・講演会等名称	期 日	会 場	参加人数	講師・備考
資料展「書で味わう放哉」	H31.4.2(火)～ 4.29(月)	県立図書館2階 特別資料展示室	390名	
資料展「～タウン誌『スペース』とその書き手・徳永進～本とその資料展IN鳥取県立図書館」	R1.5.10(金)～ 6.12(水)	県立図書館2階 特別資料展示室	275名	『スペース』と徳永進 本とその資料展 実行委員会との連携
企画展示「もっと知りたい!韓国・中国」	R1.6.1(土)～ 6.29(土)	県立図書館1階 一般図書室	—	江原道・吉林省との交流25周年関連、県交流推進課と連携
企画展示「『とっとりNOW』創刊30周年」	R1.7.18(木)～ 8.18(土)	県立図書館1階 一般図書室	—	県広報課との連携
資料展「鳥取県の郷土玩具～板祐生生誕130年に寄せて」	R1.9.17(火)～ 10.9(水)	県立図書館2階 特別資料展示室	190名	「とっとり県民の日」関連展示
企画展示「減災のすすめ ハザードマップで災害に備えよう」	R1.9.17(火)～ 10.9(水)	県立図書館2階 通路ギャラリー	—	同時期に、市町村立図書館でも「ハザードマップ展」を開催
企画展示 ・「声をそえるー8ミリフィルムと5人の鑑賞者、その語り<川端編>」 ・「昭和～あの頃のとっとり」	R1.10.19(土) ～11.4(月) R1.10.26(土) ～11.13(水)	県立図書館2階 特別資料展示室 県立図書館2階 通路ギャラリー	147名 —	「すみおれアーカイヴス」との連携
特別資料展「とっとり文学の情景 情景を生みだす風景と旅」	R1.11.19(火) ～12.23(月)	県立図書館2階 特別資料展示室	332名	「文字・活字文化の日」関連行事
郷土文化講演会「とっとり文学の情景 地域を見つめる旅」	R1.11.23(土)	県立図書館2階 大研修室	32名	講師：川村湊氏 (文芸評論家)
資料展「デジタル化でうかびあがる岩美の魅力～デジタル化資料の活用にもけてー」	R2.2.8(土)～ 2.22(土)	岩美町中央公民館ロビー	—	岩美町立図書館との共催
鳥取県に伝わる昔話を聞く会	毎月第4土曜日 、年10回	県立図書館2階 おはなしの部屋	135名	語り手：個人

※このほか、郷土出身人物の偉業を紹介するミニ展示等を4テーマ実施。

○「文字・活字文化の日」関連事業

・「ブックインとっとり記念講演会」開催(ブックインとっとり実行委員会と共催)

期日等	令和元年11月2日(土)	場所: 倉吉交流プラザ
参加者	26名	
内容	地方出版文化功労賞受賞者の記念講演及び表彰式	

〈その他の取り組み〉

○外部機関との連携

名称	連携内容	期日	会場
鳥取大学全学共通科目 「デザインプロジェクト」	図書館の利用方法・機能・サービス等について講義、学生による資料調査のサポート	R1.10.19(土)	県立図書館
ホスピテイル・プロジェクトの展示及びトークイベント「私(わたし)の声をきく」 (主催: すみおれアーカイヴス)	展示の協力、連携展示、トークイベントに出演	R1.10月~11月	県立図書館
「日常記憶地図」 ※個人の記憶とまちの関係性を立体的にとらえるプロジェクト(主催: 鳥取藝住実行委員会(totto編集部))	郷土資料による調査をサポート	R1.10.27(日)	県立図書館
「地域学研究会第10回大会」 (主催: 鳥取大学地域学部)	シンポジウムのパネリストとして登壇	R1.11.24(日)	鳥取大学

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・資料展では、当館の貴重なコレクションを展示し、初めて公開した資料もあった。
- ・外部との連携による資料展、授業利用等を行い、郷土情報の提供と発信に努めた。
- ・デジタル化推進事業では、『鳥取県郷土調査(全62巻)』(昭和11年頃に小学校単位で地域の地誌・歴史・民俗等についてまとめた冊子)のデジタル化を進めた。
- ・デジタル化の利便性を紹介する資料展を岩美町で行った(岩美町立図書館と共催)。

ウ 成果及び効果

- ・資料展では、これまであまり公開していない貴重な資料も展示し、鳥取県の魅力や県出身者の業績を発信することができ、県民に関心を持ってもらえる内容となった。
- ・岩美町で開催したデジタル化を紹介する展示では、当館所蔵の岩美町出身者の作品等を地元で展示し、関心を持ってもらうことができた。
- ・その他の事業でも関係機関とタイアップすることにより、図書館の有効な活用方法を提供することができた。

エ 課題

- ・郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積、情報発信をこれまで以上に努める。
- ・これまでに発行した「郷土出身文学者シリーズ」の普及や、鳥取県に関係する人物、自然などを県民に積極的・魅力的に発信するためには、市町村立図書館、学校図書館等とさらに連携する必要がある。
- ・重要な郷土資料が災害等で滅失・破損等しないよう対策をしていく。
- ・貴重な郷土資料のデジタル化資料を県民が利活用できるよう、公開に向けて準備を進める。

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価
図書館国際交流事業	B	
鳥取元気プロジェクト	—	
元気づくり総合戦略	—	

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

環日本海諸国（韓国・中国・ロシア）の原書やその地域について記述された日本語図書の収集・提供を行うとともに、様々な事業を通じて、鳥取県（県民）と環日本海諸国との交流を促進する。また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報収集・提供に努める。

(イ) 事業の実施状況

○環日本海諸国の図書館図書交換事業

- ・協定を結んでいる環日本海諸国の図書館との図書交換を進めた。

中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方	
河北省図書館		春川市立図書館		ゴーリキー図書館 沿海州児童図書館	
送付	受領	送付	受領	送付	受領
未送付	未着	102冊	102冊	未送付	58冊

※未着の図書館については、海外送付のための審査待ちとのこと。

※中国・ロシアについては、コロナウイルスの影響で海外への郵便がストップしているため送付できなかった。

○関係諸国の資料整備

- ・環日本海交流室・国際交流ライブラリーの閲覧用資料を購入
(図書646冊、雑誌32種、新聞5種)

○国際交流ライブラリー講演会の開催

講演会等名称	期 日	会 場	人数	講 師
親子多読 絵本とアニメで 楽しい英語!	R1.12.1(日)	倉吉古流プ ラザ	47名	酒井邦秀氏(NPO多 言語多読理事)
日韓食文化比較—似て非な る文化の理解	R1.12.21(土)	県立図書館	32名	朝倉敏夫氏(立命館 大学食マネジメント 学部長)
ノスタルジーと熱狂 ロシ アとロシア文化を考える	R2.1.25(土)	米子市立図 書館	182名	亀山郁夫氏(名古屋 外国語大学学長)

○「外国語で楽しむえほんのじかん」の開催

- ・外国語絵本の読み聞かせと外国語の文化紹介を行った。
- ・随時開催。読み手は、ボランティアと県立図書館職員。

実施回数	年3回
参加者	延べ89名
対象言語	英語、中国語、ロシア語

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・国際交流ライブラリー講演会では、県中・西部の図書館と共催し、各地域の課題に沿ったテーマ等について企画段階から相談・調整を行った。
- ・企画展示では、国際交流に関する県政やその時々話題等をテーマに、関連図書を紹介した。
- ・タイムフェスティバル（国際交流団体や在住外国出身者等がそれぞれの活動、国を紹介する催し）に出展し、国際交流ライブラリーの紹介・本の貸出を行っているが、今年度初めて世界の国々の絵本の読み聞かせを行い、留学生との交流を行った。

ウ 成果及び効果

- ・講演会（3回）は、英語多読、韓国文化、ロシア文化をテーマで開催したが、参加者の年齢層は子どもから高齢者まで幅広く、様々な世代が関心を持ち満足する内容となった。開催後は関連図書の貸出も多く、図書館利用の促進につながった。
- ・「外国語で楽しむえほんのじかん」等の行事、図書展示、出前図書館等を行うことにより、県民が国際理解や関心を深める機会を提供することができた。

エ 課題

- ・国際理解のための講演会等を引き続き開催していく。また、教育現場での英語が注目されている中、市町村立図書館と協力し学校等への支援に取り組む。
- ・鳥取県が交流している環日本海の国々について、引き続き図書館としての交流や、国際理解のための活動を行う。また、新たにモンゴル中央県立図書館との図書交換を通じた交流を始める。
- ・環日本海交流室の留学生の利用を普及啓発するため、大学図書館等と連携していく。

(単位：千円)

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価
生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業	A	
鳥取元気プロジェクト	—	
元気づくり総合戦略	—	
(概要)		
ア 目的及び事業の実施状況		
(ア) 目的		
平成27年度に策定した「学校図書館活用教育推進ビジョン」及び「学校図書館活用ハンドブック」をもとに就学前から小、中、高等学校まで一貫した見通しを持った学校図書館活用教育の一層の普及を図る。		
新学習指導要領を踏まえた主体的・対話的な深い学びの実現を目指し、学校図書館活用を推進するため、学校図書館を活用した授業の年間計画作成や具体的な実践、学校図書館関係職員の能力向上に資する研修やその他広く教職員と学校図書館活用の意義を共有できる研修を実施し、学校現場での図書館活用教育が推進するよう支援する。		
(イ) 事業の実施状況		
○学校図書館活用教育普及講座の実施		
期日等	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年8月19日(月) 米子市役所淀江支庁舎 令和元年8月20日(火) 倉吉交流プラザ 令和元年8月21日(水) 鳥取県立図書館 	
参加者	合計 129名 (対象：小中学校・特別支援学校教職員)	
内容	午前：講義「新学習指導要領と学校図書館 ～新教育課程で、なぜ学校図書館活用なのか～」(3日間共通) 午後：講義と演習「主体的・対話的で深い学びを創造する学校図書館 ～探究的な学習をどう実践するか～」8月19日(月)、21日(水) 午後：講義と演習「少しの工夫で授業が変わる、子どもが育つ ～学校図書館活用入門～」8月20日(火) ・講師：帝京大学教育学部初等教育学科 教授 鎌田和宏氏	
○学校図書館司書研修会(年1回)		
内容・講師	期日	参加者
講義と演習「学校図書館の可能性をもとめて ～「STARTプログラム」ミニ実践～ 講師：茨城県立水戸第二高等学校 勝山万里子氏	7月30日(火)	24名
会場	倉吉総合産業高校	
○学校図書館支援員の研修会派遣		
・学校図書館関係職員対象 派遣回数8回 研修参加人数296名		
研修会	実施市町村	内容
市町村教育委員会及び市町村立図書館主催研修会	鳥取市(4回)、米子市、倉吉市、八頭町	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館活用の具体例 年間授業計画の作成について 学校図書館と司書教諭、学校司書の役割
○学校での図書館セミナー		
・生徒対象 派遣回数2回、研修参加人数150名		
研修会	学校	内容
学校主催図書館セミナー	県立米子南高校	・図書館の効果的活用方法

○県教育センターとの連携

・学校図書館支援員が講師を務めた。

合計7回 研修参加人数323人

研修会	対象	内容
新任司書教諭研修	小・中・高・特別支援学校の 新任司書教諭と希望者	「学校図書館と司書教諭の役割」
司書教諭研修(小・中・ 高・特) 計2回	小・中・高・特別支援学校の 全司書教諭	「学校図書館の活用と司書教諭 の果たす役割」
初任者教諭研修 (小・中・高) 計4回	小・中・高等学校の新任教諭	「図書館の効果的な活用」

○高校生の読書推進事業

・「高校生にすすめたい本パンフレット」作成と配布

高校、特別支援学校の学校図書館より紹介された高校生へのおすすめ本33冊をパンフレットに掲載し、県内の高校・特別支援学校高等部生徒へ配布。

生徒によるパンフレット掲載の本の中から読みたい本への投票 6202票

○「全国高等学校ビブリオバトル2019鳥取県大会」

日 時	令和元年12月8日(日)13時～17時
場 所	倉吉体育文化会館 大研修室・小研修室①②
出場校・出場人数	12校・20名
参加人数	80名(出場者・観覧者・スタッフ等)
チャンプ本	『神々の山嶺 上・下』(夢枕獏 著/集英社) 鳥取商業高等学校 →全国大会出場(令和2年1月26日:よみうり大手町ホール)

○授業活用選定用見本図書の貸出

・学校や各市町村立図書館に紹介し、3市町村に合計41セット貸出した。

イ 令和元年度の事業実施にあたり改善等に取り組んだ点

・県教育センターの司書教諭研修(中・高)への高校司書の聴講を可能とし、司書と司書教諭と一緒に研修を受講できる機会を増やした。

ウ 成果及び効果

- ・学校図書館関係者への「鳥取県学校図書館活用教育推進ビジョン」の普及が進み、「情報センター」として、年間授業計画の見直しが進んだり、学校図書館が軸となって情報活用能力の育成を進める先進事例が見られるようになったりしている。
- ・司書教諭と学校司書と一緒に学ぶ研修会を通して、学校図書館の授業活用において両者の協力の重要性について理解が進んだ。学校司書や司書教諭、教員を対象とした講座において先進事例を紹介し、学校図書館活用教育の推進につながっている。

エ 課題

- ・来年度、小学校で新学習指導要領に基づく授業が実施される中、より学校でのニーズに即した情報提供や研修内容が求められる。
- ・高校で、総合的な探究の時間等探究的な学習での学校図書館の活用に差がある。
- ・学校図書館活用教育推進ビジョンの普及啓発が進む中で、市町村や学校により学校図書館の利活用で差が見られる。また、教科間での利用頻度に差があるのは仕方がないが、本来資料が活用されるべき場面で学校図書館が十分活用されていない実態も少なくない。
- ・情報活用能力の育成に不可欠な、計画的な学校図書館活用が県内で伸び悩んでいる実態もある。学校図書館関係者にとどまらず、学校図書館利活用に向け、引き続き現状に即した事業展開を計画していく必要がある。

(単位：千円)

事業名	図書館の行動評価	委員の行動評価
市町村立図書館等協力支援事業	B	
鳥取元気プロジェクト	—	
元気づくり総合戦略	—	

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

市町村立図書館等の機能向上を図るため、資料・情報を提供すると共に、各館の職員のスキルアップを目的とした研修会・講座を開催する。各館と連携し、住民に対し図書館利用を啓発する事業を実施する。県全体の図書館サービスの高度化を図り、ネットワークの要としての役割を果たす。

(イ) 事業の実施状況

市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送、一括大量貸出、訪問相談、資料相談を行った。司書の技術向上を図るため、以下の研修事業を実施した。また、新規事業として図書館を活用した地域情報の発信について学ぶ研修会を開催した。

<令和元年度の市町村立図書館等への貸出冊数> (令和2年3月末現在)

支援先	平成29年度	平成30年度	令和元年度
市町村	59,716冊	61,661冊	58,524冊
高等学校	30,030冊	30,205冊	23,279冊
特別支援学校	14,377冊	16,185冊	15,192冊
病院図書室	8,254冊	3,821冊	4,313冊
大学・団体・その他	4,627冊	4,865冊	4,335冊
合計	117,004冊	116,737冊	105,643冊

○図書館業務専門講座(年4回)

・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、図書館職員のスキルアップを目的とした研修を実施した。

内容・講師	期 日	参加者	会 場
「気付きを上げる実践型接遇研修」 ・講師：加納 尚樹 氏 (接遇コンサルタント)	R1.5.31	59名	鳥取県立図書館
「自由研究と公共図書館～よりよい資料提供を目指して～」 ・講師：水本 浩二 氏 (鳥取市立久松小学校) 土橋 和彦 氏 (鳥取市立湖山小学校) 向井 道彦 氏 (農村漁村文化協会)	R1.8.1	34名	鳥取県立図書館
「オンライン百科事典ウィキペディアを使って 地域の魅力を世界に発信しよう！」 ・講師：オープンデータ京都実践会	R1.9.28 R1.9.29	15名 19名	日南町 琴浦町
「市民とともに育つ図書館～伊万里の実践から～」 ・講師：盛 泰子 氏 (図書館フレンズいまり、伊万里市議会議員)	R2.1.16	44名	米子市立図書館

○新任職員のための図書館職員実務研修会

内容	期 日	参加者	会 場
図書館の社会的役割・機能 県立図書館の市町村支援・学校支援 本の正しい扱い方と郷土資料の活用法 資料相談（レファレンス）の基礎	H31.4.17	30名	鳥取県立図書館

○「鳥取県ジュニア司書養成講座」の開催

実施館	期 日	修了者
鳥取県立図書館	R1.5.15、22、30	8名
米子市立図書館	R1.8.1～8.2	11名
大山町立図書館	R1.8.18～8.19	4名

○県立図書館職員が講師を務めた研修

- ・市町村立図書館職員のスキルアップのため、希望する図書館や自治体の研修会に出向き研修を行った。

内容・講師	開催市町村	期 日	参加者
音読サポーター大和公民館 中尾有希子（郷土資料課長）	米子市	R1.6.20	23名
行政サービス研修 小林隆志（支援協力課長）	大山町	R1.8.26	12名
境港市読書まつり 小林隆志（支援協力課長）	境港市	R1.12.15	60名
八頭町障がい者サービス研修 福市信・花房睦美（障がい者サービス担当）	八頭町	R1.12.26	15名
日吉津村役場職員図書館活用セミナー 小林隆志（支援協力課長）	日吉津村	R2.1.15	38名
鳥取市障がい者サービス研修会 福市信、花房睦美（障がい者サービス担当）	鳥取市	R1.1.30	40名
音読サポーター境港市 中尾有希子、佐伯真由佳（くらし支援担当）	境港市	R1.2.20	24名

○県立図書館の職員が市町村の図書館運営に関する委員などを務めた事例

委員の名称・委員名	市町村名	任 期	備 考
岩美町立図書館協議会委員	岩美町	H30.4.1～R2.3.31	
八頭町子どもの読書活動推進計画策定委員会 小林隆志（支援協力課長）	八頭町	H31.4.1～R2.3.31	
江府町図書館協議会 小林隆志（支援協力課長）	江府町	H31.4.1～R3.3.31	
わかさ図書館運営委員会 小林隆志（支援協力課長）	若桜町	H31.4.1～R3.3.31	

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・研修の実施に当たっては、先進的な事例を学び、各図書館が新しい取り組みやサービスを開始する契機となるテーマを意識して企画した。
- ・様々な事業を、市町村立図書館と協働で実施することで、全県における県民の参加機会の創出や市町村立図書館職員の技能の向上を図り、県内図書館の住民サービスの充実を目指した。

ウ 成果及び効果

- ・第4回の図書館業務専門講座では、図書館のサポートに意識のある一般の方々が多く参加された。
- ・読書バリアフリー法が施行された今年、市町村立図書館の障がい者サービスに対する関心が高まっている。。
- ・様々な研修機会が、市町村立図書館の機能向上につながっている。

エ 課題

- ・支援の充実のため、各館に訪問相談として出向き、現場のニーズを把握することが必要である。
- ・図書館が知の情報拠点としてこれまで以上に活用されるように、図書館のサービスや機能を県民に知ってもらうための一層の取組みが必要である。

事業名		図書館の行動評価		委員の行動評価		
図書館運営費(資料購入整理費)		A				
鳥取元気プロジェクト		—				
元気づくり総合戦略		—				
(概要)						
ア 目的及び事業の実施状況						
(ア) 目的						
多様化・高度化する県民の要望に的確に対応するため、あらゆる分野の最新資料、専門的な資料、郷土資料、市町村や学校を支援する資料等、図書資料の充実を図る。						
(イ) 事業の実施状況						
○図書及び逐次刊行物の整備充実						
・県民の専門的な要求にも応えられるよう資料の充実を図り、逐次刊行物について広範な分野で最新の情報が提供できるよう充実に努めた。						
○一般図書・児童図書等の除籍						
・複本のあるものや旧版の資料、内容が古く利用のないもの、資料の状態の悪くなったものを除籍した。						
<資料の整備状況>						
区分		H31年3月 末冊数	購入等 (寄贈含む)	除籍	計	R2年3月 末冊数
蔵書合計		1,159,458	29,601	△5,801	23,800	1,183,258
内 訳	一般	794,086	22,526	△3,529	18,997	813,083
	郷土	144,008	2,666	△31	2,635	146,643
	児童	120,555	2,872	△2,224	648	121,203
	協力	78,661	1,187	△14	1,173	79,834
	その他	22,148	350	△3	347	22,495
イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点						
・「オレンジネットワーク鳥取モデル」推進事業や「サポートの必要な家庭」応援事業など、当館の事業に関連した資料の充実を図った。						
・ビジネス支援やレファレンスに活用できる参考図書の充実を図った。						
・複本や旧版資料の除籍をすすめた。						
ウ 成果及び効果						
・認知症や引きこもり関連の資料を充実させ、関係者や関心のある県民に多く利用された。						
・ビジネス支援をはじめ、相談業務でのレファレンスツールとして活用された。						
・不要資料の廃棄をすすめ、書庫の空き容量の確保に努めた。						
エ 課題						
・多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら、最新の資料を幅広く収集する必要がある。						
・郷土資料は、出版情報に目配りし、網羅的に収集に努める必要がある。						
・蔵書数の増加により、閉架書庫を含めた書架の空き容量が減少してきており、今後の資料増加に対応するため、複数所蔵している本、版を重ねている本、内容が古くなった本等を除籍し、空き容量を確保していかなければならない。						